

幾代会 2019年度(平成31年) 4月の観察会報告 都立長沼公園散策

下見参加 宇津木 木村 中部 下見は西尾根を歩く 勾配きつい。

下見時 入り口付近でカタクリの群生地を紹介してもらった。まずはそこに足を運ぶ。頂上園地は強風が吹いており、お弁当は風を避けて、一段低い林を選んで食べる。

実施日 下見のコースとは別に歩くことにしました。良い天気にも恵まれました。岡、越前、木村(洋)須崎、中部の5名で歩きました。今まで見なかった植物に出会いました。あれ、なんなんかな? 忘れてしまった。下見をしたコースとは別のコースを歩き、その面白さを感じ取りました。どんな面白さか? 忘れませんでした。

スマイレ 葦 すみれ タチツボスマイレを取り巻きながら、道の土手を見回すと、ナルコユリかホウチャクソウかと議論しながら、図鑑を探りナルコユリと判断したのだが。野猿の道では小さな美術作品を展示するところがあり、そばには食事処もありました。かつての面影が残る場所でした。小さな展示場で作品を見ながら、いよいよこれで展示もできなくなるという話を聞きながら、後にしました。

実施日時 4月7日(日)

コース 京王線 長沼駅→都立長沼公園→殿ヶ谷の道→野猿の尾根道→頂上園地(昼食) トイレあり→展望園地→平山口→栃本尾根→中谷戸→カタクリ畑→長沼駅

公園内の様子

ヤマザクラ こぶし イヌシデ ウグイスカグラ キブシ クロモジ モミジイチゴ
ガマズミ シュンラン カタクリ タチツボスマイレ ニオイタチツボスマイレ
ナガバノスマイレサイシン
花ははっきりしないが
コナラ クヌギ ヤマザクラ こぶし エゴノキなどが目立ちました。

展望台にて

秩父連山 奥多摩連山 関東山地が遠くに見られ近くには浅川が煮える場所でした。

* * * * *

モクレン科 熱帯～暖温帯に分布 日本には2属7種 固有種4種

- 常緑または落葉の高木と低木→
- 柔組織に油細胞がある→
- 葉は螺旋状につき単葉、全縁、托葉が大きい頂芽を含む→
- 花、枝の頂端か脇目に単独でつける→
- 花弁も雄蕊も螺旋状に長い軸状となる。→

こぶしで考える

○展開前の花芽 つぼみは苞葉(どんなもの)+托葉が縁でつながり、「袋」×3に覆われている。

袋の内側2つは葉身と腋芽がある。

○花被片は9枚(3枚×3重)内側の6枚が花びら 外側の3枚が萼片(細長い)

雄蕊はへら状で両側の隙間から花粉を出す。雌蕊は柱状に集まる。

雌蕊は先に熟し柱頭を突き出す。その後雌蕊は中心にへばりつくようになり雄蕊が突き出て花粉を出す。 両性花→

白モクレンとコブシの違い

こぶしは花びらと額がはっきりしている。白モクレンは区別ができない。

<https://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~fukuhara/keitai/>

が写真としてとても良い